

2023 年度 一般入試
第 2 回

国 語

〔注意事項〕

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷きおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、濃くはっきりと書くようにして下さい。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないで下さい。
- 6 試験中はよそ見をせず、きちんとした態度で行って下さい。
- 7 何か物を落としたら、黙って手をあげて下さい。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為をしないで下さい。

「次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

園子^{そのこ}さんが出かけてすぐ、マキはカツラの様子を見ようと、部屋のドアを開けた。

「カツラ？」

カツラはベッドの上に上半身を起こして、なにかやっていた。

「もう、熱は下がったみたい」

昨夜、腹痛^{ふくろう}と熱で苦しんだ顔はまだ青白い。なのにカツラは、またクマの編みぐるみの続きを編んでいたのだ。

マキは思わず、頭に **A** 血が上るのを感じた。

「いかげんにしてっ」

ベッドに近よっていき、カツラから乱暴^{らんぼう}に毛糸をうばいとった。

「やだっ、なにすんの？ せっかく編んだのに、ほつれちゃうじゃない！ マキのバカッ！」

「バカはそっちでしょ。カツラがまた熱出したせいで、おばあちゃん、今日はお店を休みにしたんだよ」

カツラは、フンと **I** をとがらせた。

「休まなかったっていいのに。このくらいのことだったら、おばあちゃん、いつもはお店開けるのに。どうして今日だけ」

「まりえりのところへ行ったんだよ」

「え？」

①カツラの表情^{ひょうじょう}は、とたん^{ひょ}にけわしくなった。

「マキ、まりえりのところに通ってたこと、おばあちゃんに教えちゃったの？」

「教えないわけにいかないでしょ。カツラったら、このまえのかが治^{なお}ったばっかなのに、ゲーゲーもどして、また熱出して。おばあちゃんだって、なんかあったんじゃないかって思うじゃない」

でもカツラは、そんなことは **II** にも入らないという顔で、「もうまりえりのところには行っちゃダメって言われたらどうすんの？ 編みぐるみを完成させられないじゃん！」とヒステリーを起こし、マキに向かって思いっきり自分の枕^{まくら}を投げつけた。

「いたっ！」

マキは、 **B** カツラをにらみ返した。

「編みぐるみ、編みぐるみって、それがそんなに大事？」

マキはカツラの机の上にあった編みぐるみの本を、乱暴に手に取った。

「ねえ、この本はいいなんなの？」

口を閉じたままのカツラに向かって、声をぶつける。

「ひとりだけとつぜん、こんなこと始めてき。お母さんの本なんじゃないって聞いても、すぐには教えてくれなかった。いったいなにかしてんの？ なにがあったの？ ずるいよ、自分ばっか。ちゃんと話して聞かせてよっ！」

どなるように言って、編みぐるみの本をベッドの上にたたきつけた。

マキにはもう、止められなかった。

「ずるいよ、自分ばっか？」

②カツラは、ピクッと表情を変えた。マキを見る目が、いっしゅんにしてするどくなつた。

「じゃあマキはどうなの？ ずるくないの？ ひとりだけでなんかやるのがずるいんだったら、マキはわたしなんかよりずっとずるいじゃない！」
ベッドから立ちあがったカツラは、マキに近寄り、その両腕を C つかんだ。

「わたしたち、半分こにできるものは、なんでもちゃんと半分こにしてきたよね？ でもわかっている？ マキが、マキだけが、ひとりじめしてきたものが、いっぱいあるってことっ！」

「カツラ……」

「それを後ろから見ただけっていう気持ち、わかる？ わからないでしょっ！ マキにはわからないっ！」

つかんだマキの両腕をばげしくゆさぶりながら、カツラはさげぶように続けた。

「わたし、マキみたいにお父さんが話してくれるむずかしい話、すぐに理解できないし、聞いてもねむくなっちゃう。空に散らばっていく音を感じるなんてことも、できない。でも、まったく興味がなかったわけじゃない。わたしだってやってみたかった。お父さんのそばで、いろいろやってみたかったっ！」

「で、でも。全部が全部、そうだったわけじゃないよ。お母さん、いつも言っていたじゃない。しゃべれるようになったのも、字が読めるようになったのも、カツラのほうが早かったって。季節の花がさいいたとか、鳥がきれいな声で鳴いてるとか、まわりの変化に気がつくのだって、いつも必ずカツラだったって」

「ちがうっ！ わたしが言っているのは、そんなことじゃない。お父さんがなにか新しいことをやりはじめると、『なにしているの？』って、すぐに寄っていくのはマキだった。あのラジオのときだってそうだったじゃない。マキが、『すごい！ ハンドルを回すと、どうして充電できるの？』って目を輝かせて聞くから、お父さんたらすぐうれしそう。いつだってそう。お父さんはマキのそんなところが、いつだって自慢げだったっ！」

カツラの心のガラスが、われて飛びちったしゅんかんだった。

重いカーテンをひきちぎるようにして取りはらった心の底には、ずっとおおいかくしてきたカツラの想いがあった。言葉になったその想いは、ガラスの破片のように、するどくマキの心につきささった。

休日の昼下がり。

リビングのテーブルにおもちゃを広げ、なかよく遊ぶふたごたち。

そのうちのひとりの目が、ちょうどそのとき、そばを通りすぎた父親の動きをとらえ、手にしていたおもちゃを放りだしてそばに行く。

「お父さん。それ、なあに？ なにしてるの？」

「ん？ これかい。これはねえ……」

それはまぎれもなく、何かおもしろいことが始まる合図だった。

後ろから、すぐにもうひとりの足音が聞こえてきて、最初にかけては、あわてて父親にピタッと体をくっつける。

「わたしも、わたしにも見せて！」

おくれてきたもうひとりも、ねだるように言う。

「うんうん、わかった。じゃあ順番にね」

ひとりめは、心の中でホッとする。だったら最初はわたしのほうだ、と。

それでも少しして、ひとりめは、急に口数が少なくなったもうひとりのことが気にかかる。チラッとそっちに目を走らせると、そこには、まばたきもせずじっとこっちを見ている、表情のうすい目があった。

マキは、息を吸うことさえ苦しくなった。

強くつかまれている両腕より、胸のほうがいたかった。ずっとかくしてきた罪悪感が、そっくりそのままカツラの言葉になって、自分の胸にささっているんだと
思った。

肩でハアハア息をしながら、カツラは苦しそうな顔で、こうさげんだ。

「あの本を見たとき、やっと見つけたって思った。マキじゃない。これはわたしがやる。お母さんのかわりに、わたしがやるのっ！」
そして逃げるようにベッドにもぐりこみ、大きな声を上げた。

「ウワーアアアアアッ」

さげび声に近い泣き声だった。

マキは、頭が真っ白になった。

さっき、カツラは言った。

「お父さんはマキのそんなところが、いつも自慢げだった」

そうだ、そのとおりだ。それこそが、マキのよろこびだった。

だけど、わかってもらいた。そんなときカツラが、どんな目をしてこっちを見ているのかを。だから言えなかった。お父さんをひとりじめして、いっしょにレコー
ドを聴いた、あの宝物のような夜のことを。

「ごめん！ カツラ、ごめんなさい」

マキは、丸まったカツラのふとんにしがみついてさげんだ。

「ごめんね、ほんとにごめんね、カツラッ！」

しがみついた腕に力をこめ、何度も何度もあやまった。

だけどカツラははげしい声を上げて、泣くばかりだった。

そのときマキは、自分の腕の中に体温を感じた。泣きながらふるえる、カツラの体のあたたかさを感じた。そして思ったのだ。

このままカツラまで、いなくなってしまうたらどうしよう。そしたらもう、自分は生きてはいけない、と。

「カツラッ！」

マキは自分の腕に、さらに力をこめた。

腕の中にあるカツラを守るように。

泣きくずれるこの体が、こわれてしまわないように。

このまま自分を置いて、どこかに消えてしまわないように。

「ウワァァ……なんで、なんで死んじゃったの？ 帰ってきてよー、お願い、帰ってきてえー」

聞こえてくる泣き声が、両親を呼ぶ声に変わった。

「会いたいっ。お父さん、お母さん、会いたいよーっ。会いたいよおー」

カツラがくり返す「会いたい」は大きな波になって、そのままマキにふりかかってきた。それは口にしてはいけない言葉だった。

だって、現実を変えられないから。

時間ももどることなんて、絶対ないから。

でもふたりはこの二年間、圧倒的な愛情のかたまりを失ったというその現実の上に立っていたのだ。たがいに強くしがみつき、足元の悲しいことには目をつぶって。
て。

限界だった。マキの心も、がまんできなくなった。

「会いたいよ。お父さんとお母さんに、わたしだって会いたい！」

なみだはあふれでた。

悲しかった。

くやしかった。

⑥ 世界の果てまでさがしたって、両親はもう、どこにもいないのだ。
現実も、過去の思い出もなにもかも忘れ、マキの頭の芯にあるのは、ただ「会いたい」という感情だけだった。

蓼内明子 『ブレイメン通りのふたご』より

問一 A C に適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア バシット イ ザザット ウ ギュット エ キット オ カット

問二 I・II に適する漢字一字の語をそれぞれ答えなさい。

問三 部①「カツラの表情は、とたんにけわしくなった」とありますが、その理由の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア まりえりが編みぐるみの本を捨ててしまうのではないかと思ったから。
イ まりえりと会えなくなるかもしれないと思ったから。

ウ まりえりに嫌われてしまうのではないかと思ったから。

エ まりえりのところへ行ったらおばあちゃんが心配だったから。

問四 部②「カツラは、ピクッと表情を変えた。マキを見る目が、いっしょんにしてするどくなった」とありますが、このときカツラはどのような気持ちだったと思われるか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア マキに「ずるいよ」と言われて、自分が秘密にできたことがばれたのではないかと不安になった。

イ マキに「ずるいよ」と言われて、マキが編みぐるみの本を返してくれないのではないかと不安になった。

ウ マキに「ずるいよ」と言われて、面と向かって自分の欠点を指摘されたことに腹が立った。

エ マキに「ずるいよ」と言われて、マキがマキ自身のことについていないことに腹が立った。

問五 部③「まぎれもなく」、④「目を走らせる」の意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

③ 「まぎれもなく」	ア 時間にゆとりなく	④ 「目を走らせる」	ア 夢中になる
	イ タイミングが悪く		イ 注目する
ウ どうしようもなく	エ まちがえようもなく	ウ すばやく見る	エ うれしそうに見る

問六 部⑤「ずっとかくしてきた罪悪感」とありますが、それはマキのどのような思いですか、わかりやすく説明しなさい。

問七 部⑥「世界の果てまでさがしたって、両親はもう、どこにもいないのだ」とありますが、マキとカツラにとって両親がどのような存在であったかを表現している部分を、文中より十字程度で抜き出しなさい。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①「エンハンスメント」という言葉自体は、強めること、増強という意味で、「増進的介入」などと訳されることもあります。指します。端的に言えば、より美しく、より強く、より有能な人間をつくるための技術的介入、A、私たちの身体を通常以上の力や機能をもつものに「改造」するために、手術を行ったり、薬物を使用したりすることです。

エンハンスメントは、生命倫理学のなかの新しいテーマで、近年、これに対する関心が急速に高まりつつあります。

従来の生命倫理学が、（生殖医療を含め）おもに病気の人を治療する場面で発生する倫理問題を扱ってきたのに対し、エンハンスメントでは、すでに健康な人を「よりよく」改造することが問題となります。

B、事故などで顔に怪我をしてしまった人に形成手術を行って、元の外見に近づけることは「治療」ですが、医学的な必要性がないのに、本人の希望で鼻を高くしたり、目を二重にしたりすることは、「治療を超えた」整形エンハンスメントです。

C、重度の近視により、生活に著しい不便さを感じている人に、目の手術を行って視力を改善させ、QOL（生活の質、人生の質）を向上させることは、「治療」になります。視力に問題がないのに、ゴルフなど、遠方を見る視力が重要となる競技で、他の選手よりも優位に立つために、手術を受けて常人以上の視力を得ることは、「エンハンスメント」にあたります。

ここに技術の二重性という問題が出てきています。

いま例にあげた鼻の形成術や目の手術などのように、「治療」に使われている技術が、エンハンスメントにも使われています。すなわち、おなじ技術を、治療のためにも、エンハンスメントにも利用することができるのです。

薬についても同様のことが言えます。たとえば、発達障害と診断された子どもに処方されていた集中力を高める薬が、他の子どもたちによって「スマートドラッグ」として用いられていることが報道されています。

Dです。発達障害の診断自体が、現段階では曖昧さの残るものであるため、詐病（病気のふりをすること）により、薬を不正に入手するケースさえもあると言われています。このように、当初は、治療目的で開発された薬や技術が、グレーゾーンでの流用を経て、ついにはエンハンスメントに転用されることがあります。

科学技術や医療技術を利用して、私たちの身体や頭脳や心を、より強く、より美しく、より優れたものに作り変えることは、どこまで許されるのか。そもそも、そのような人間の「改造」は「よいこと」なのか。④その技術が広く用いられるようになると、私たちの生きるこの社会や世界や人生は、一体どのように変化していくのか。

（中略）

これまでの文化では、私たち一人一人が自分の能力を高めることは、与えられた身体的条件（身体能力や認知能力「計算力や記憶力」など）のなかで、個々人が

努力することで達成されると考えられてきました。ところが、身体的な能力や頭脳のはたらきを薬物などで増強（エンハンス）できるようになると、そのような「努力」の価値や意味が成り立たない文化ができあがっていきます。

それはどのような世界でしょうか。

そのような「未来社会」では、運動能力や認知能力など、人間のさまざまな才能を、お金で手に入れることができるようになったり、親が子どもに買い与えたりするようになるでしょう。それが進めば、「努力」することの価値を知ってほしい、豊かな人間性を育ててほしいと望んで、^⑤あえて子どもを「自然」なまま成長させたいと考える親たちが現れたり、そのような親たちが、周囲から「なぜ子どもを苦しめるの？」と非難されてしまったりすることが起こるかもしれません。

「不完全」だったり、苦しいことがあったり、逆境に立たされて奮闘したりすることは、避けるべきことなのでしょうか。

この世に生きる私たちは、人生のなかで、数え切れないほどの「試練」を経験します。それは、ときに私たちの人間性を磨き上げ、大きく成長させてくれることもあります。苦しい経験をして初めて、他人の気持ちが分かったり、逆境を克服しようとするなかで、色々なことを学んだり、新しいチャンスをつかんだりしながら、私たちは自分の人生という壮大なドラマの主人公を生きています。そのような経験こそが、私たちの人間性を豊かに耕し、魅力的な人格を作り上げていく。そこにこそ、「人間であること」の意味が成り立つという見方もできます。

このような生来の資質と本人の努力が織りなす個人ヒストリーに、バイオテクノロジーを用いた「^{*}ショートカット」が取って代わるとしたら、私たちの人生観、価値観は、どのように変わるのでしょうか。それによって、人類は、どう変化していくのか。それは進化なのか、それとも墮落や退化をもたらすのか。

私たち人間にとって、あるいは人生にとって、大切なものは何かという根本的な問題を、エンハンスメントは問いかけています。そして、私たち人類はどこへ向かうのか、どのような選択をするのかという究極的な問いを突きつけられているのです。

小林亜津子『生命倫理のレッスン 人体改造はどこまで許されるのか？』より（本文より見出しを削除した。）

* 生命倫理学……生命に関する問題を道徳的に研究する学問。

* 生殖医療……人工授精や体外受精などの、新しい医療を用いた不妊治療。

* グレーゾーン……どっちつかずの部分。

* ショートカット……近道。

問一 — 部①「エンハンスメント」とありますが、文中における「エンハンスメント」の意味にあたるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つけまっつけの付け方やアイシャドウの塗り方を工夫して、目が大きく見えるようにした。

イ プロバスケッ卜ボール選手になりたいので、成長ホルモン剤を用いて身長を伸ばした。

ウ 遺伝子検査により乳がんになりやすいことがわかったので、手術で乳房を切除した。

エ 頭痛がひどかったので痛み止めを飲んだら、痛みが治まって勉強に集中することができた。

問二 — A C に適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア すなわち イ しかし ウ あるいは エ たとえば オ さて

問三 — 部②「優位に立つために」の意味として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 優先される立場になるために イ 有利な地位に立つために ウ 勝利を確実にするために エ 親切にしてもらうために

問四 — 部③「技術の二重性」の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア おなじ技術が、治療のためにも、エンハンスメントにも用いられること。

イ おなじ技術が、正しい目的のためにも、誤った目的のためにも使われること。

ウ エンハンスメントが、手術によっても、薬によっても行われること。

エ エンハンスメントが、良い結果にも、悪い結果にもつながること。

問五 — D に最も適する語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 部分的 イ 合理的 ウ 連続的 エ 強制的

問六 — 部④「その技術が広く用いられるようになると、私たちの生きるこの社会や世界や人生は、一体どのように変化していくのか」とありますが、筆者はどのような社会になると考えているでしょうか。その説明をした次の文の (a)・(b) に適する語を、それぞれア～オの中から選び、記号で答えなさい。

人間の能力を (a) (b) ではなく、 (a) (b) によって手に入れる社会。

ア	お金	イ	治療	ウ	薬物	エ	努力	オ	技術
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

問七 — 部⑤「あえて子どもを『自然』なまま成長させたいと考える親たちが現れたり」とありますが、「子どもを『自然』なまま成長させる」とはどのようなことですか。文中のことを用いて説明しなさい。

三 次の各語の対義語を後の語群からそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 拡大
- 2 複雑
- 3 水平
- 4 美点
- 5 人工

きょくせん	げんしょう	たんじゅん	けってん
おせん	てんねん	すいちよく	しゅくしょう

四 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 お知恵をハイシヤクしたい。
- 2 古今東西のメイチヨを読む。
- 3 ジュンシンな心を傷つける。
- 4 人形をアヤツる。
- 5 ねじをマク。

